

和歌山県白浜町臨海“北浜”に打ち上がったミドリイガイ
Perna viridis washed up on shore at “Kitahama beach” in Rinkai
in Shirahama Town, Nishimuro, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信*

Shin Kubota*

和歌山県白浜町番所崎の磯浜とその基部に北向きに東西に伸びる砂浜、通称“北浜”には、過去5年間あまりで524種・亜種・型の軟体動物が打ち上がり(久保田・小山, 2002a, b)、その後も追加種が記録され続けている(久保田・小山, 未発表)。このうち二枚貝類のイガイ科では5属9種(ムラサキイガイ、イガイ、クログチ、コウロエンカワヒバリガイ、クジャクガイ、ムラサキインコ、ヒバリガイモドキ、ヒバリガイ、リュウキュウヒバリガイ)が記録されている。今回、第10番目の種として、わが国への移入種としてよく知られるようになったミドリイガイ *Perna viridis* (L.)の2個体が、いずれも軟体部が消失し片方の貝殻のみになったものではあるが、2003年9月中旬に相次いで打ち上がったので今回報告する。これで“北浜”や番所崎には、計6属10種のイガイ科の打ち上げ記録となる。

打ち上がったミドリイガイの2個体(図1)は、貝殻の後腹部が破損消失し、殻の外表面に付着しているサンカクフジツボも全ての個体が死亡していた。サンカクフジツボの全個体からは蓋板が脱落しており、それらは、周殻と殻底だけ残存した個体と殻底のみになった個体とからなる。従って、ミドリイガイの2個体とも死亡後暫く時間が経過してから打ち上がったものと推察される。ミドリイガイの殻はいずれも厚く、またその大きさ(少なくとも93mmの前後軸長)からみて、田辺湾附近で数度は越冬してきた(田名瀬・久保田, 1997 参照)と推定された。なお、サンカクフジツボは番所崎の磯浜周辺には生息が見られないので、2個体のミドリイガイは、湾の奥に設置された養殖筏のような人工物上に付着して成長していたものと思われる。

臨海“北浜”に打ち上がったミドリイガイの2個体の採集記録

	前後軸長	貝殻の左右	採集年月日	サンカクフジツボの付着状態
標本 1	95 mm 以上	右	2003 年 9 月 11 日	殻底と周殻合わせて 25 個体
標本 2	93 mm 以上	左	2003 年 9 月 14 日	殻底のみ 7 個体

ミドリイガイは、もともとインド・西太平洋の熱帯や亜熱帯の浅海域に広く分布するが、県下でミドリイガイが最初に発見されたのは、1992年8月に前岩 崇氏により潮岬の磯での稚貝の貝殻であった(紀伊民報, 1993)。田辺湾では1996年1月中旬のほぼ同時期に、吉田卯太郎氏(最大個体は45 mm)と著者(前後軸長26 mmの1個体の貝殻)が独立に初めて稚貝を発見して以降(紀伊民報, 1996; 田名瀬・久保田, 1996)、生息の確認情報

や記録が増加し続けており(田名瀬・久保田, 1997; 真鍋, 2000; 本覺寺桴貝事務局, 2003)、近年では田辺湾で日本最大個体(前後軸長 132.8 mm)も発見されている(田名瀬・真鍋, 2002)。また、和歌山県沿岸では田辺湾に限らず、紀北(今原ほか, 2001)や紀南(前岩, 2000; 久保田, 未発表)からも生息が確認されている。このような分布拡大は、最近問題となっている地球温暖化現象とも関連しており、日本各地でのミドリイガイの分布の記録からみて(植田, 2002)、和歌山県沿岸からも生体の生息や打ち上げ個体の発見がこれまで以上の地点で今後も増加してゆくものと推察される。

引用文献

- 本覺寺桴貝事務局. 2003. 事務局だより H15 年 5 月-8 月まで. 7/28, 7/29. 本覺寺桴貝, (40): 50-51.
- 今原幸光・岡本 洋・久保田 信. 2001. 紀伊水道東岸で定着したミドリイガイ(二枚貝綱、イガイ目)-和歌山県北部での初記録-. 南紀生物, 43(1): 73-74.
- 紀伊民報. 1993 年 1 月 1 日: 県下初のミドリイガイ、潮岬の海岸で繁殖しているかも。黒潮貝類同好会 今夏に生息状況調査。
- 紀伊民報. 1996 年 1 月 19 日: ミドリイガイを発見。黒潮貝類同好会の吉田さん。生息しているものは県下初。
- 久保田 信・小山安生. 2002a, b. 番所崎、特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物目録 (1), (2). 南紀生物, 44(1): 69-76; 44(2): 133-139.
- 前岩 崇. 2000. ミドリイガイの報告. 本覺寺桴貝, (31): 34.
- 真鍋 學. 2000. ミドリイガイ. 本覺寺桴貝, (31): 17.
- 田名瀬英朋・久保田 信. 1996. 和歌山県田辺湾産のミドリイガイ(二枚貝綱、イガイ目) 南紀生物, 38(1): 11-12.
- 田名瀬英朋・久保田 信. 1997. ミドリイガイ(二枚貝綱、イガイ目)は和歌山県田辺湾で冬越し可能. 南紀生物, 39(1): 21-22.
- 田名瀬英朋・真鍋 學. 2002. 和歌山県田辺湾に出現した大型のミドリイガイ(軟体動物門、イガイ科). 南紀生物, 44(1): 48-49.
- 植田育男. 2002. ミドリイガイ. In 日本生態学会編, “外来種ハンドブック”, p. 187. 地人書館, 東京.

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所(Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan), email: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

図1. 和歌山県白浜町臨海“北浜”へ打ち上がったミドリイガイ2個体の貝殻の輪郭

